

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第3回和文会誌分科会 開催日：5月14日。出席者：長島主査，ほか16名。

1. 鉄と鋼，第62年第10号（9月号）の掲載記事を決定した。
2. 読み物的な記事の種類およびその編集方法について検討を行なった。
3. 随想および技術資料の執筆依頼者の検討を行なった。

第3回欧文会誌分科会 開催日：5月19日。出席者：橋口主査，ほか5名。

1. 7件の論文について審査報告がなされ，掲載可2件，照会后掲載可2件，修正依頼2件，掲載不相当1件であった。
2. 「鉄と鋼」62年6号より研究論文1件とレポート1件，及び「鉄と鋼」以外の学協会誌，会社刊行誌より1件の研究論文について投稿を勧誘することになった。

共同研究会

原子力部会

第44回第4小委員会 開催日：4月27日。出席者：一色主査，ほか9名。
文献発表

1. 中間熱交換付多目的高温ガス炉 (UHTR) に関する予備的検討とパラメーターサーベイ (IAEA-SM-200/57) 発表者：石川島 仲田哲朗委員
2. ガス冷却炉における断熱システムの問題点 (IAEA-SM-200/30) 発表者：川重 井崎隆委員代理
3. High Temperature Alloys for the power Conversion Loops of Advanced HTR's 発表者：日特鋼 沢繁樹委員代理

第16回第5小委員会 開催日：4月14日。出席者：笹木小委員長，ほか17名。

1. 委員会報告書について
昭和50年度に検討した「鉄鋼業の石炭ガス化に関する基本調査」の報告書案について審議した。W.G.から出された報告書案の骨子について説明がなされ，一応了承されたが，最終報告書にむけてのつめは各W.G.主査及び幹事による編集会議で行ない5月末完成を目標とすることになった。
2. 昭和51年度の研究計画案について
昭和51年度は，工技院のサンシャイン計画「流動床方式による高カロリーガス化パイロットプラントの概念設計」の中の「ガスの利用システムの研究」を委託研究としてやることになったが，研究の内容，進め方について討論した結果，具体案については今後更に検討することです承された。

鉄鋼生産設備能力調査本委員会

第3回製鉄設備分科会 開催日：4月28日。出席者：鈴木部会長兼主査，ほか7名。

1. 設備能力算定式へコークス強度を考慮する件。
コークス強度の扱いは，各社統一的な扱いが出来にくい面もあり，今回は解説の項に特記事項として記載することになった。
2. データ整理の結果
 - 炉頂圧は折れ線で表示することとした。
 - 特異データは原因を明らかにし，除去してよいものはデータから除くことにした。
 - 生データはその特性を把握しておくためヒストグラム化することとした。
3. 次回（第4回）は5月26日鋼管本社で開催する予定である。

条鋼設備部会

第2回中小形設備分科会 開催日：4月28日。出席者：寺垣直属幹事，ほか11名。

1. 各社試算結果とりまとめ報告
第1回中小形設備分科会において，各社のミルについて現状の能力算定式に沿って試算していただくことになっていたが，その結果のとりまとめ報告がなされた。問題点のひとつとしてW.B.炉W.H.炉の場合計算値が実績値より高めに出ていることが挙げられた。
2. 次回までの検討事項
一応問題点が出そろったので，各設備についての検討分担を以上の如く決定した。
 - 加熱炉関係……新日本製鉄
 - 圧延関係……神戸製鋼
 - 切断関係……住友金属（ホットソーは神戸製鋼）
 - 標準稼働体制……愛知製鋼
 なお，オフラインの精整設備は除外し，達成可能な範囲内での最高値を算出することを前提とした。

第2回線材設備分科会 開催日：4月27日。出席者：三木主査，ほか9名。

1. 各社試算結果の報告
第1回分科会にて決定した各社の試算結果の報告がなされ，問題点が出された。圧延設備のうち総合能力算定式のうち稼働率 γ は $\gamma=94.4\%$ ，作業率 β はコメントつきで $\beta=85\%$ ，実動率 α は現行通りとすることにした。
また捲線機能力算定についてはとくに問題はないことがわかった。更に送線機能力についても問題はないが，調査票のうち「送線機……」を「精整設備……」と名称変更し，その中に結束機設備の調査項目を新設することにした。
2. 簡略式について
主査より簡略式の1つの案が示されたが，次回までに各社が独自の案を検討することになった。
3. 加熱炉能力算定について

連続加熱炉設備部会より、線材設備関係の加熱炉についての答申案が紹介された。

.....

第2回連続加熱炉設備部会 開催日：4月13日。出席者：片田部会長，ほか16名。

連続加熱炉能力算定方式について考え方を統一し，予定通り圧延部門設備部会に第1次案として答申する事が決議された。

1. 答申案骨子

(1) 総括編

基本式並びにその決定のいきさつを解説。

(2) 部門編

各炉の補正係数の求め方について解説。

(3) 参考編

加熱能力に影響を及ぼす諸要素を考察。

2. 答申案の送付期限

圧延部門設備部会長宛へ5/E迄に送付する。

3. 答申案について圧延部門設備部会より説明を求められた場合は各担当委員を派遣する。

標準化委員会

ISO鉄鋼部会

第36回SC1分科会 開催日：4月27日。出席者：佐藤主査，ほか5名。

1. DIS 4829 (けい素の吸光度法) このDIS法による実験結果から，日本は技術的資料を付して反対することにした。

2. 第8回TC17/SC1会議報告

4月6～7日ダブリン (アイルランド) で開催されたSC1国際会議の出席報告があり，日本として検討しておくべき事項を整理し，化学分析分科会にも依頼することにした。

第18回SC3分科会 開催日：4月23日。出席者：青木主査，ほか9名。

1. 耐候性鋼 (230E)

非リムド鋼に限定，棒鋼のグライнда手入れの追加，batch lot の削除，lot の拡大，衝撃試験片の採取位置をJIS通りに改めるなどの日本コメント案を作成した。なお形鋼の引張試験片採取位置は長時間論議の末，JISとは異なるが原案に賛成することにした。

2. 寸法許容差

TC8でも寸法許容差が問題となった際日本はJIS G 3193をベースにしたコメントを提出している経緯を考慮してG3193の内容で日本コメントをまとめることになった。

.....

データシート部会

第23回構造用鋼の機械的性質分科会 開催日：4月23日。出席者：山本主査，ほか7名。

1. 構造用鋼の熱処理かたさ

4社提出の資料をそのまま記載することにし，さらに追加データがとれば，追加して行くことにした。

2. 低温衝撃試験結果のチェックを行った。

3. 衝撃試験片のかたさ測定は各試験に用いる試験片全部について実施することにした。

.....

第49回特殊鋼分科会 開催日：4月26日。出席者：品川主査，ほか19名。

1. 構造用鋼の記号体系

鋼種分類記号なる用語の採用の可否については記号小委員会に検討を委ねた。又ボロン鋼を基本鋼と考えるかボロン処理鋼と考えるかは保留とした。

2. 機械構造用炭素鋼鋼材

鋼板小委員会から審議経過及び最終案が報告され，検討の結果承認された。なお冷間加工鋼材と熱間加工鋼材を一規格にまとめるか，別にするかは，工技院の見解を徴取したのち結論付けることにした。

.....

第43回鋼管分科会 開催日：4月12日。出席者：丸岡主査，ほか14名。

1. STBの検討

逐条審議を行なった。特に鋼管の非破壊試験はどの程度の規定水圧までを水圧試験の代替と考えるかが論議の的になった。スミルシートの内容実体調査をすることにした。

2. 特別品質規定

かたさ測定箇所は実体調査後に決める。高温降伏点又は耐力は手持ちデータによるデータ保証の考え方も追加することで再検討する。ひれ付き管の寸法許容差及び引張試験片の採取位置は実態調査の上決定する。

第20回材料研究委員会

開催日：4月7日。出席者：天明委員長，ほか11名。

研究テーマの進め方に関する考え方について討議した結果「焼入れ性をより正確に定量的に評価する手法を確立する」という基本的な点で意見が一致した。しかし，方法論においては種々の考え方があることが明らかにされ，この点に関してさらに検討し51年度に着手すべき研究の具体案が決定された。

内容の概略は次に記すとおりである。

1. 標準ジョミニー試験によって，Fe-C-X系におけるCおよびXの焼入れ性に及ぼす影響を交互作用を考慮しつつ定量的にもとめる。

2. 前処理条件等を含めた広い意味での試験条件，試験方法に関する実験をおこない不明確な諸点を解明しておく。